２０２４年（令和６年）１０月１１日　金曜日

デーリー東北　１３面　掲載

金渕（工大一）ら321人

プロ野球志望届

日本高野連と全日本大学野球連盟は10日、プロ野球志望届の提出を締め切り、321人（高校159人、大学162人）が公表された。24日のドラフト会議で指名対象となる。

青森県関係では、高校生は金渕光希（工大一）、岡本琉奨（八学光星）、吹田志道（弘学聖愛）の3人が提出。大学生は加藤響（八学大）、平尾柊翔（同）、吽崎新（七戸町出身、青森大）、大内弘也（青中大）、大橋匠吾（八学光星高出、東北福祉大）、中澤英明（八学光星高出、創価大）、田中恵亮（八学光星高出、中部学院大）が届け出た。

高校生の投手では東海大相模（神奈川）の藤田琉生の上位指名が予想される。身長198㌢の大型左腕で潜在能力が高い。同じく今朝丸裕喜も報徳学園（兵庫）を選抜大会で2年連続準優勝に導いた総合力の高い右腕だ。福岡大大濠の柴田獅子、甲子園大会に4度出た広陵（広島）の高尾響も評価が高い。

選抜大会で優勝した健大高崎（群馬）の箱山遥人は強肩強打の捕手。内野手はU-18（18歳以下）アジア選手権で活躍した花咲徳栄（埼玉）の石塚裕惺、早実（東京）の宇野真仁朗はパンチ力のある打撃が魅力だ。

大学では明大の宗山塁が東京六大学リーグ通算104安打、10本塁打の打力と遊撃での守備力を兼備する。関大の左腕、金丸夢斗は今春に腰を痛めたが、150㌔前後の速球と変化球を制球良く投げる。

青学大の西川史礁は東都大学リーグで最高殊勲選手に2度輝いた長打力と確実性を持つ。愛知工大の中村優斗は大学屈指の球威が売り物だ。

大学日本代表組ではともに強打を誇る渡部聖弥（大商大）吉納翼（早大）の両外野手が候補になりそう。

プロ通算525本塁打、清原和博の長男で、慶大の清原正吾内野手を指名する球団があるかも注目される。

デーリー東北新聞社提供